

## 2025（令和7）年度卒業生 就職活動体験記



### 岡山市役所

経済情報学科

**難波 大夢**

出身校：  
岡山県立総社南高等学校

私は、大学3年生の5月頃から公務員講座に通い、筆記試験の対策を始めました。公務員試験は多くの科目があり、広い範囲から問題が出題されるため、時間を確保しコツコツ積み重ねて勉強することが大切だと思います。できるだけ勉強しない日を作らずに、「1日10分でも勉強しよう」と意識していました。また、家で勉強に集中できないときは、大学の自習室を利用し環境を変えながらモチベーションを維持していました。

公務員試験は一次の筆記試験に目が向きがちですが、最終合格するにはそれ以降の面接試験も特に重要です。地方公務員、国家公務員ともに面接の比重が高くなってきており、人物重視の試験へと変化しています。大学生活の中でアルバイト、サークル、ゼミ、ボランティアなどの様々な経験をすることが、面接で話せるエピソードづくりにつながると思います。

最後に、公務員試験は周りの人たちが内定をもらい終えた後に本格化するので、焦りやストレスを感じることもありました。趣味の時間を作るなど、試験対策以外の時間も大切に、オンとオフの切り替えをしながら頑張ってください。



### 株式会社NTT データ中国

経済情報学科

**渡邊 裕哉**

出身校：  
広島県立府中高等学校

私は「行動すること」「逃げないこと」の二点を常に自らの指針とし、就職活動を行いました。尾道市立大学では、2年生の後期から本格的な就職支援が行われますが、実際には、「まだ自由な時間を楽しみたい」という甘えが勝り、準備を後回しにしていました。

意識が変わったのは、3年生の夏季休暇です。何もしていない現状に強く危機感を抱きました。そこで、関心のあったIT業界を志望軸に定め、インターンシップや会社説明会を無理やりにでもスケジュールに詰め込みました。強制的に活動することで、着実に前進を実感できました。この経験のおかげで、多くの場数を踏み、面接でも自分の言葉で自然と対話できるようになりました。

また、準備過程で最も苦勞したのは「学生時代に力を入れたこと」の項目です。学業成績は維持していましたが、特筆すべきエピソードが欠けていると感じていました。そこで私は、10月に、2か月で「基本情報技術者試験」を受験する計画を立てました。もし落ちればアピール材料がないまま選考突入となる「背水の陣」でしたが、このプレッシャーが原動力となり、集中して学習し合格することができました。

後輩の皆さんには、とにかく逃げずに「行動」を起こし、なんでも良いので自分が誇れる武器を身につけてほしいと思います。それが必ず、自分自身を助けてくれるはずです。



## 広島県内公立中学校

日本文学科

**竹田 倅**

出身校：  
大分県立佐伯鶴城高等学校

私は、大学3年生頃まで、民間企業と教職のどちらの道に進むのか迷っていました。就職活動は、自分自身と向き合う良い機会になったと感じています。本当に自分がしたいことは何か、何のために頑張りたいと思えるのだろうかと考えた末、教職の道を選びました。

私が教員として合格できたのは、日々の大学生活の中で多くの学びや気づきを与えてくださった先生方、同じ教職課程で学ぶ友人、そして教育実習での経験のおかげです。どのような教師になりたいのか、どのような学級をつくりたいのか。二次試験の面接では、これまでの授業や実習を通して考えてきたことを、自分の言葉で伝えました。就職活動を通して、私は教師としてどのように働いていきたいのかを、改めて深く考えることができました。

最後に、これから就職活動を行う方々に伝えたいことがあります。振り返ってみると、大学での学びを、もっと大きなものにできなかったのではないかと悔やむことが多くあります。授業を受ける姿勢や日常生活、さまざまな人との関わりなど、一つひとつの小さな積み重ねが大切なのだと思います。教職に進むかどうかは関係なく、日々の時間を大切にしていくことが、就職活動で自分と向き合う際の材料となり、これから頑張ることの糧になるのだと実感しました。

就職活動を通して、私がこれから目指す教員像として、「生徒に損をさせない授業を行うこと」「生徒が社会で強く生きていけるような指導を行うこと」を大切にしたいと考えようになりました。私自身も、これからの一日一日を大切にしながら、努力を重ねていきたいと思っています。



## 株式会社フェイス

美術学科

**玉田 真里夏**

出身校：  
愛媛県立今治西高等学校

思い返してみると私の就職活動は焦ってばかりでした。作品制作中、「就活がきつい」「なかなか受からない」といった先輩方の話を耳にし、優秀な先輩方でさえ苦戦しているのなら私はどうなるのだろうかという強い不安と絶望を感じたことを覚えています。そんな不安の中から、私の就職活動は始まりました。

私が大切にしていたのは、早めの行動です。まずデザイナーとして内定をいただいていた先輩に質問をし、情報収集から始めました。企業の探し方や面接内容、就職活動スケジュール等を教えてもらいました。それから、3年生後期の地域課題制作と並行して作品整理や撮影、ポートフォリオのレイアウト検討を進めていきました。企業説明会にも積極的に参加し、企業研究を進める中で「制作のプロセス全体に関われること」「幅広い媒体の制作ができること」に魅力を感じていると気づき、その軸を大切に企業探しを行いました。

選考で意識していたのは完璧を目指さないことです。完璧な回答をしようとすると過度に緊張してしまい、うまく話せないことが多かったからです。暗記した回答ではなく、自分の言葉で簡潔に回答することを意識し、にこやかな態度で臨みました。

就職活動は不安が大きいと思いますが、行動することで、自分がやりたい事やすべきことが見えてきます。頼れる人にはしっかり頼り、息抜きもしながら、皆さんが納得のできる選択ができることを願っています。